## 赤沼のオシドリ

昔、田村の郷に馬の充（すけ）という男が居て、狩りをして暮らしを立てていた。ある日、狩りに出掛けるとその日は何一つ獲物がなかった。帰る途中、赤沼でオシドリが二羽仲良く寄り添っているのを見付け、ぐるり（「くるり」とも。水鳥など射るときに使用した矢）でねらいを定めると、雄鳥を仕止めることができた。

その夜、馬の充の夢の中に女が出て来て、さめざめと泣き、

「殺された雄鳥は私の夫です。こうなった上は私も死んであの世で仲良く暮らしたいと思います。」

と言って、すっとその姿を消してしまった。

馬の充は夢からさめ、朝方に雄鳥を入れた袋を見ると、中で雌のオシドリが自分のくちばしで腹を突き刺して、雄鳥に寄り添うように死んでいるのであった。

心を打たれた馬の充は殺生を止め、出家したという。